

令和4年度 文学部国際教育学科 一般選抜（中期日程）講評

問題は、英文読解問題と英語・日本語での表現力をみる問題から構成されている。読解問題では、的確に英文の内容を把握できるかをみている。その上で、長文問題では、内容に関して日本語で簡潔に説明できるか、自分の意見を英語で筋道立てて展開できるか、をみている。

出題意図

能力主義（メリトクラシー）に関する英文記事を題材に、英文の内容を正確に読み解いた上で、それを日本語で簡潔に説明する力、さらに自分の主張を英語で論理的に表現する力をみている。昨今、行き過ぎた能力主義による様々な弊害が教育分野だけでなく広く論争的問題になっている。国際教育学科の受験生には国際的な広い視野だけでなく、問題の本質を深く掘り下げて捉える力も求められる。今回の記事を通じて、近代社会を規定する能力主義とはいかなる原理か、その功罪はどのようなものか、能力の不平等やそれに基づく財や自尊心の不平等にいかに対処するか、といった点を考えてもらいたいという意図で出題した。

評価のポイント（長文問題）

問7

本文の要点を正確に読み取り、それを日本語で簡潔に表現する力をみている。まず、能力主義の問題点として、能力主義の勝者が抱く尊大な態度、敗者が抱く屈辱感、共通善に貢献しようとする意欲の低下などを指摘したい。また、サンデルによる解決策の提案について、共通善に対する市民的な態度・感情の養成、運の要素の認識、謙虚さの涵養といった点などに言及したい。

問8

能力主義について、説得力のある根拠や具体例を示しながら自分の主張を英語で論理的に説明できるかをみた。その前提として、文法上のミスやスペルミスなどなく、適切な英文を書く力が求められている。

答案の傾向

問 1

正確に意味を捉えていない解答が見られた。文脈に即した訳であるのは大事だが、文法や語彙は正確に訳してほしい。出来ている受験生と出来ていない受験生の差が大きかった。

問 2

多くの受験生が出来ていた。

問 3

なぜ共通善を阻害することになるのかを端的にまとめて説明する解答が少なかった。

問 4

正答率は低かった。

問 5

あまり出来ていなかった。

問 6

正解は少なかった。

問 7

勝者の視点だけ、もしくは敗者の視点だけなど、能力主義の問題点や解決策を部分的に書いている解答が多かった。

問 8

主張と理由は書けていたが、自分の意見ではなく、本文の意見を写しているものが多かった。そのため、具体例が挙げられていなかった。品詞の区別が出来なかったり、英語の構文が正確でない文章が多く見られた。